令和２年１月２９日

健診検査センターニュース　No.６３６号

運営委員会より

１月１６日（木）令和元年度第１０回の運営委員会を開催いたしました。

１．特定健診１２月の受診者数は、下記のとおりでした。

	１２月受診者数**（前年比）**	累　計　**（前年比）**	
函館市国保	918 人 **（　81 人 109.7%）**	8,614 人 **（△257 人　97.1%）**	函館市国保受診率 １２月現在 18.64% ／ 目　標 30.0%
後期高齢者	442 人 **（　12 人 102.8%）**	5,447 人 **（△153 人　97.3%）**	
その他	210 人 **（△ 18 人　92.1%）**	1,645 人 **（△ 99 人　94.3%）**	
合　計	1,570 人 **（　75 人 105.0%）**	15,706 人 **（△509 人　96.9%）**	

実施機関：92 件／登録機関 101 件

２．令和元年 12 月の健診検査事業収益は、下記のとおりでした。

	12 月（前年同月比）	31 年度累計（前年比）
一般検査収益	114.7　%	110.6　%
健診収益	106.2　%	103.3　%
合　　計	110.8　%	107.0　%

３．函館市医師会員・家族並びに従業員の定期健康診断（一期目）は、ご利用医療機関 59 件、受診者数 410 名との報告がありました。

４．平成 30 年度「健康診断事業報告書」の発刊について協議され、３月中に配布することになりました。お届けの際にはご高覧頂きますようお願い申し上げます。

≪　ちょっと一言　≫

この冬は稀に見る暖冬で楽でいいなあ、と皆さんも思っていることでしょう。この先の予報も暖冬が持続するようですので、スキー場と除雪業者にとっては厳しい 1 年の始まりですね。また年明けから中国の新型肺炎が問題になっています。インフルエンザも未だ流行が続いているそうですので、春節で外国人がたくさんやってくる当地では感染症対策を抜かりなくやっておく必要があるでしょう。ところで最近気になった Facebook 投稿があります。函館にも講演にいらしたことのある国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長、薬物依存症センターセンター長松本俊彦医師が、「ストロング ZERO は『危険ドラッグ』として規制したほうが良いのではないかと本気で思うことが良くあります。」と発信したものです。最近、アルコール飲料売り場で存在感が増しているいわゆるストロング系チューハイについてのコメントですが、私もどこかで、「ストロング系チューハイは安く酔うためのもの」と聞いたことがあります。松本医師曰く、結局あれはお酒というよりも単に人工甘味料を加えたエチルアルコールであり、お酒の味があまりせず、ジュースのような口当たりなので女性や若者が良く飲む、お酒を楽しむためではなく、酔うために飲んでいる。口当たりが良いため強いアルコールを速く摂取してしまうという問題もある。ストレス社会の解消策としてストロング系が飲まれているところもある。酔って忘れるために、頭をゼロにするために飲んでいるなと感じる。タバコも同じですが、ストレス解消を目的に依存性薬物（ニコチン、アルコール等）を摂取しても、ストレスの原因が解決されるわけではないので、ニコチンやアルコールがないと余計辛くなって、どんどん依存していくというのは薬物依存の王道です。安いという理由で豊かでない人々がアルコール依存の危険性の高いものにすがる社会はあまりにも悲しい。そんな世の中が少しでも好転することを願ってやみません。私も基本お酒好きですが、今年も、美味しく、楽しく、乱れずに、検査値の悪化もなくお酒を楽しめる 1 年になりますように。（文責　小葉松洋子）